

Strix 5 : 65-68 (1986)

北海道天売島で観察された コクマルガラスについて

中村一恵¹・寺沢孝毅²

コクマルガラスはユーラシア大陸に広く分布する小形のガラスで、地理的にヨーロッパ系とアジア系の2群に大別される。筆者の一人寺沢によって、1986年4月22日北海道天売島で観察撮影された個体は、従来冬鳥として九州等に渡来するアジア系のもではなく、ヨーロッパ系に含まれる個体である可能性が大きいと考えられるに至ったので報告する。

日本鳥学会(1974)は、これら2系を同種とみて、日本に渡来するアジア系のものに対し、*Corvus monedula dauuricus* Pallas の学名を与えている。しかし、Peters(1962)や Voous (1977)をはじめ、両系を別種と認める研究者は少ない。その場合、ヨーロッパ系の個体群については、*Corvus monedula* L. アジア系については *C. dauuricus* Pallas という学名が与えられる。ここでは別種とする立場で以下論議を進め、本文中では前者をヨーロッパコクマルガラス(仮称)、後者をコクマルガラスと呼んで区別する。

天売の個体がヨーロッパ系に含まれるのではないかと考えられた最大の理由は虹彩の色による。ヨーロッパ系とアジア系とで虹彩の色が異なることは、Goodwin, Ethecopar と Hùe など多くの研究者によって指摘されている。すなわち、ヨーロッパコクマルガラスでは白、コクマルガラスでは褐色と記載されている。

Goodwin は、ヨーロッパコクマルガラス幼鳥の虹彩は、最初青味を帯びているが、やがて鈍い褐色から鈍い白色にゆっくり変化し、約1年で銀白色ないしはパールグレイになる

表1. コクマルガラス2種の虹彩に関する記載例

<i>C. monedula</i>	<i>C. dauuricus</i>	
	灰褐色	山階(1933)
白 (white)	—*	Dement'ev and Gladkov (1954)
	乳白色	清棲(1965)
灰白色または銀白色 (greyish white or silvery white)	暗褐色 (dark brown)	Goodwin (1976)
白またはパールグレイ (white or pearl grey)	暗褐色 (dark brown)	Coombs (1978)
ごく淡い灰色 (gris très pâle)	褐色 (brun)	Ethecopar and Hùe (1983)
灰白色 (grayish white)	暗褐色 (dark brown)	De Schauensee (1984)
	褐色	李 (1985)

* Dement'ev and Gladkov は *dauuricus* の虹彩の色については触れていない

1986年9月10日受理

1. 〒231 横浜市中区南仲通5-60 神奈川県立博物館
2. 〒078-39 苫前郡羽幌町天売 天売小学校

と述べている。Ethecopar と Hütte によると、あらゆる年令でヨーロッパコクマルガラスの虹彩の色は白、コクマルガラスのそれは褐色であることが、Piechocki & Balod(1972)によって確かめられているという。年令に伴って虹彩の色が変わるかどうかで多少異論があるようであるが、2種で虹彩の色が異なるとする点では、以下の表に示すように大方の研究者で一致をみている。

しかしながら、なぜか日本の研究者では、コクマルガラスの虹彩を、例えば、山階は灰褐色、清棲は乳白色と記載し、黒田も、記載はしていたが、その図版(p. 19, pl.2)において、虹彩を白く描いている。これらの記載および図示による色彩は、むしろヨーロッパコクマルガラスの特徴と近い(表参照)。しかし、森岡照明、叶内拓哉両氏のご教示によると、九州に渡来するコクマルガラスの虹彩は、暗色型、淡色型を問わず褐色である。鴨川(1983, p.130)によって九州で撮影された写真を見ても、虹彩は白とは思えず、褐色系のものである。この点を鴨川氏に問い合わせたが、同氏からの私信(1986年7月11日付)によれば、虹彩は白くはない。天売島のもものは両眼ともはっきりと白系統であり、褐色系ではない。

山階によると、淡色型では、後頭から頸側にかけての幅広い部分(以下頸環と書く)およびこれに連なる下面がすべて灰白色であるのに対し、暗色型^(註)では、これらの部分のうち、頸環が石板黒色、下面が灰黒色で、すべて黒色部との境界は明らかではない。事実、鴨川氏のカラー写真でも、頸環はわずかに石板黒色を帯びているように見え、黒色部との境界は明瞭ではないようである。しかし、天売の個体では、後頭から頬、頸にかけて全体に銀灰色を呈し、黒色部との境界は非常に明瞭である(写真参照)。

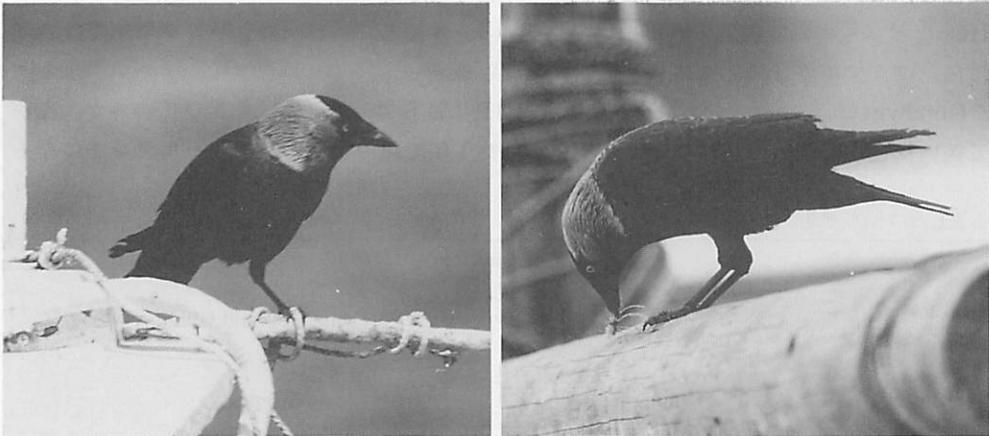


図1. ヨーロッパコクマルガラス(*Corvus monedula*) 天売島にて(寺沢撮影)。

Fig.1. *Corvus monedula* recorded on Teuri Island (Photo. by Terasawa).

ヨーロッパコクマルガラスは4亜種に分類されている(Peters, 1962)が、これらの亜種は、アルジェリアの個体群(亜種 *cirtensis*)を除いて、羽毛の摩耗の程度や個体による変異が著しく、多くの中間型が存在するといわれているが、頸環に関しては、Goodwinの記載を見ると、北ヨーロッパ(基亜種 *monedula*)や東ヨーロッパ、シベリアの個体群(亜種 *soemmerringii*)では、黒色部との境界ははっきりしているようである。天売島の個体の頸

(注) ただし、Goodwinは、暗色型といわれているものは、1才鳥に現われる羽色と考えている。

環の出方も、これらの個体群の特徴に近いように思われ、山階によるコクマルガラス暗色型の記載とは異なっている。ただし、ヨーロッパコクマルガラスのうち、西ヨーロッパの個体群では、南のものほど頸環の灰白色の部分が黒っぽく目立たなくなる傾向があり、アルジェリアの亜種でこの特徴がもっとも顕著となる (Goodwin 1976)。

以上の論議により、今回天売島で観察された個体は、その虹彩の色と羽色の特徴から判断して、ヨーロッパコクマルガラスである可能性が大きいように思える。

2種の接触部での詳しい研究がなされていないようであるが、Ethecopar と Hûe によると、ヨーロッパコクマルガラスとコクマルガラスは外モンゴルにおいて分布が重なるが、どうみても交雑することなく同所的に繁殖している。いくつかの問題はあっても、生物の種を区分する基準として、生殖隔離を重視する傾向は、現在でも一般的である。これに従うならば、両者を別種として扱う方が現実的であろう。

この個体は5月20日まで天売島に滞留した。行動範囲は天売港周辺に限られ、港の岸壁に置き去りにされたイワシ、ホッケ、スケソウダラ等の魚を好んで食い、腐ったものも食べていたようである。人間が食べ残したパンも好んで食べた。人間をあまり警戒しなかった。

アジアのコクマルガラスはヨーロッパにおいては過去にフィンランドで5月に2回記録されただけの迷鳥である (Coombs 1978)。天売の個体もあるいは西シベリア方面からの迷行例なのかもしれない。自然渡来であるならば、極めてまれな例であろう。

報告をまとめるにあたり、森岡照明、叶内拓哉、鴨川誠諸氏のご協力を得た、とくに森岡氏には仏文の訳出でお世話になった。これらの方々に厚くお礼申し上げる。

文 献

- Coombs, F. 1978. The crows, a study of the Corvids of Europe.
B.T. Batsford Ltd., London.
- Dement'ev, G.P. and N.A. Gladkov (eds.). 1954. Birds of the Soviet Union.
Sovetskaya Nauka, Moskva.
- De Schauensee. 1984. The birds of China. Oxford Univ. Press.
- Ethecopar, R.D. and F. Hûe. 1983. Les oiseaux de Chine, passereaux.
Societe nouvelle des éditions boubée., Paris.
- Goodwin, D. 1976. Crows of the world. Cornell Univ. Press.
- 鴨川誠. 1983. 長崎県の鳥. 長崎県生物学会.
- 清棲幸保. 1965. 日本鳥類大図鑑. 講談社.
- 黒田長禮. 1933. 鳥類原色大図説1. 修教社書院.
- 李桂垣(編). 1985. 四川資源動物誌第三卷. 鳥類. 四川科学技術出版社.
- Ornithological Society of Japan. 1974. Check-list of Japanese birds. Fifth and Revised Edition.
Gakken.
- Peters, J.L. 1962. Check-list of birds of the world, vol. 15. Museum of Comparative zoology,
Cambridge Massachusetts.
- Voous, K.H. 1977. List of recent Holarctic bird species. *Ibis* 119 : 376-406.
- 山階芳庵. 1933. 日本の鳥類と其の生態第一巻. 梓書房.

A Note on the Jackdaw Observed on Teuri Island, Hokkaido

Kazue Nakamura¹ and Takaki Terasawa²

A Jackdaw observed and photographed on Teuri Island, Hokkaido, from 22 April to 20 May 1986. It had a whitish iris and a conspicuous greyish silver collar. This is different from the dark-phased Daurian Jackdaw (*Corvus dauuricus* Pallas) which occurs regularly as a winter visitor in south-west Kyushu. This may be a European Jackdaw (*C. monedula* L.) recorded only as a vagrant in Japan.

1. Kanagawa Prefectural Museum, Naka-ku, Yokohama 231
2. Teuri Junior School, Haboro-cho, Teuri 078-39